

地域・社会、環境への貢献

太陽生命厚生財団

太陽生命厚生財団は、1984年5月に、当社の創業90周年を記念して「ひまわり厚生財団」として設立されました。2009年12月には公益財団法人に移行し、「公益財団法人太陽生命厚生財団」に名称変更しています。

当財団は、創設以来「高齢者や障がい者の福祉向上や文化活動を目的とした事業への助成」ならびに「高齢者福祉に関する調査研究への助成」を行い、設立目的である「わが国の社会福祉の向上に寄与する」ための事業を続けています。設立以来の助成金累計は2,634件、14億1,882万円となっています。

太陽生命グッドウィル・サークル友の会

2005年12月に、役職員による社会貢献活動を支援することを目的として、「太陽生命グッドウィル・サークル友の会」を設立しました。毎月の報酬・給与の手取り金額の100円未満の端数を会費として、森林保全活動や各職場における地域密着型の社会貢献活動などを支援しています。

太陽生命の^{もり}森林

国内3カ所に「太陽生命の^{もり}森林」を設置し、社員による森林保全活動を展開しています。

太陽生命の^{もり}森林

(栃木県那須塩原市 2006年3月設置)

1960年植樹のカラマツの人工林において、間伐、林道整備などを実施しています。社員の手によって太陽の光が射し込む明るい森林づくりが進んでいます。

2012年からは、公益財団法人日本ダウン症協会栃木支部に所属されているご家族をお招きして「森林教室」を実施しています。



太陽生命くつきの^{もり}森林

(滋賀県高島市 2007年11月設置)

森林公園くつきの森の一角において、アカマツ林の保全、広葉樹林の育成、ピオトープ整備などを実施しています。むかし里山として人と密接な関わりを持っていた森林の原風景を維持しながら、新しい形で人と関わる森林づくりを進めています。

2011年からは、地元小学校と協働で、どんぐりから苗木を育てる「どんぐりプロジェクト」を実施しています。2023年10月には、環境省から「自然共生サイト」に認定されました。



太陽生命の^{もり}森林 上山市西山エリア

(山形県上山市 2024年6月設置)

西山ふるさと公園の一角において、ホタルやハッチョウトンボの生息地の環境整備、ヒメサユリやハナショウブの保全、遊歩道整備などを実施しています。

人々の憩いの場として親しまれてきた里山を未来に受け継いでいく活動を進めています。



全国一斉クリーンキャンペーン

1982年より本社周辺の清掃活動を行っており、2004年からは「全国一斉クリーンキャンペーン」として、全国の支社周辺地域でも実施しています。

日頃お世話になっている地域の皆様に感謝の気持ちを込めて、清掃活動に取り組みました。

また、当社のサステナビリティ活動のさらなる発展に向けて、2023年度からは、神奈川県横浜市金沢区にある「海の公園」において、海岸清掃活動も実施しています。



開発途上国への支援の実施

全国の支社・本社で古本・CD・DVD、靴、書き損じハガキ、ランドセル等を収集し、活動実
施団体への寄贈を通じて、開発途上国の教育・医療支援等に役立てています。

2025年度は、約500点の古本・CD・DVD、約3,100足の靴等を寄贈することができました。



写真提供：©NPO法人ワールドギフト

「企業版ふるさと納税」による寄付の実施

2024年度より、持続可能な社会の実現に向け、企業版ふるさと納税を活用し、日本各地で社会課題解決および地方創生に取り組む自治体の支援を行っています。2025年度は6つの自治体（滋賀県高島市、山形県上山市、宮城県石巻市、愛媛県松山市、愛知県岡崎市、岐阜県岐阜市）を対象に寄付を実施しました。

『能登・石巻・福島応援マルシェ in日本橋』の開催

東日本大震災の発生以降、当社は、支社所在地域のほかで最も被害の大きかった宮城県石巻市に対して、特産品の社員向け斡旋やマルシェなどの支援活動を継続して行っています。2023年度からは福島県も加えてマルシェを同時開催し、2024年度からは能登半島地震の被災地を応援するため、能登のマルシェも同時開催しています。当日は、マルシェを訪れた方々に人気の特産品をご案内し、多くの商品が売り切れるなど大盛況となりました。また、同会場では被災地の現状と復興のあゆみを伝えるパネル展示に加え、観光ポスターの掲示やパンフレットの配布を行い各地域の魅力を来場者へ発信しました。

さらに、2025年度には太陽生命浦和ビルの社員食堂で、三陸産の食材を使用した「復興支援特別ランチ」を提供しました。今回が初の取組みでしたが、連日長蛇の列ができ、3日間いずれも完売となるなど、こちらも大変好評となりました。

